

51:1 主はこう仰せられる。「見よ。わたしはバビロンとその住民に対し、破壊する者の霊を奮い立たせ、

51:2 他国人たちをバビロンに送る。彼らはこれを吹き散らし、その国を滅ぼす。彼らは、わざわいの日に、四方からこれを攻める。」

51:3 射手には弓を張らせ、よろいを着けてこれを襲わせよ。そこの若い男を惜しむことなく、その全軍を聖絶せよ。

51:4 刺し殺された者たちが、カルデヤ人の国に倒れ、突き刺された者たちが、そのちまたに倒れる。

51:5 しかし、イスラエルもユダも、その神、万軍の主から、決して見捨てられない。彼らの国は、イスラエルの聖なる方にそむいた罪に満ちていたが、

51:6 バビロンの中から逃げ、それぞれ自分のいのちを救え。バビロンの咎のために絶ち滅ぼされるな。これこそ、主の復讐の時、報いを主が返される。

51:7 バビロンは主の御手にある金の杯。すべての国々はこれに酔い、国々はそのぶどう酒を飲んで、酔いしれた。

51:8 たちまち、バビロンは倒れて砕かれた。このために泣きわめけ。その痛みのために乳香を取れ。あるいはいやされるかもしれない。

51:9 私たちは、バビロンをいやそうとしたのに、それはいやされなかった。私たちはこれを見捨てて、おのおの自分の国へ帰ろう。バビロンへの罰は、天に達し、大空まで上ったからだ。

51:10 主は、私たちの正義の主張を明らかにされた。来たれ。私たちはシオンで、私たち

の神、主のみわざを語ろう。

51:11 矢をとぎ、丸い小盾を取れ。主はメディア人の王たちの霊を奮い立たせられた。主の御思いは、バビロンを滅ぼすこと。それは主の復讐、その宮のための復讐である。

51:12 バビロンの城壁に向かって旗を揚げよ。見張りを強くし、番兵を立てよ。伏兵を備えよ。主ははかりごとを立て、バビロンの住民について語られたことを実行されたからだ。

51:13 大水のほとりに住む財宝豊かな者よ。あなたの最期、あなたの断ち滅ぼされる時が来た。

51:14 万軍の主はご自分をさして誓って言われた。「必ず、わたしはばったのような大群の人をあなたに満たす。彼らはあなたに向かって叫び声をあげる。」

歴史は権力の交代であり、その節目はほとんどが戦いでした。この世の力とはそのようなものであり、自己実現の先にあるのは、神を計算に入れない者同士の争いです。イスラエルも信仰者もそのような争いに巻き込まれるのですが、違いは「イスラエルもユダも、その神、万軍の主から、決して見捨てられない。」ということです。

ここに信仰者の平安があり、勝利があります。争いの影響がないというわけではなく、また連戦連勝というわけでもありません。むしろこれは無理ではないかという状況に置かれます。しかし、主がそのご計画のゆえに、私たちは守ってくださるのです。

言うまでもありませんが、それは私たちの勝手な自己実現のためでなく、神様のご計画です。その計画は全ての人を救いに招くためです。自分のためではなく、神の愛のために自分のことを二の次にできる人こそ、神様からの祝福に与れるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

